

スケートパークを活かした街づくり

次に豊富なスポーツ大会・イベントの開催実績を持つ民間企業との連携により、地域活力の向上を目指している茨城県笠間市の笠間スポーツコミッションの取り組みについて述べる。

1. 地域活性化の切り札にスケートパーク

笠間市では多くの地方都市と同様、少子高齢化、人口減少が課題となっており、地域の活力を維持・向上させるための対策が求められていた。

1992年に開園した茨城県営笠間芸術の森公園は、笠間焼に代表される「伝統工芸と新しい造形美術」をテーマとして多彩な施設を有し、イベント広場、野外コンサート広場では様々な催しが行われており、茨城の新しい文化の発信基地としての役割も担っている。

しかしながら2000年代になっても尚、未供用区域が残されていてその活用が課題となっていた。ようやく14年度から茨城県と笠間市で検討に入り、若年層や広域からの集客が見込め、近隣にはない施設という理由から東京オリンピックの正式種目に採用されることになったスケートボードが楽しめるスケートパークに決定した。

次に課題となったのが管理運営主体をどうするかであった。当時スケートパークは全国にも既存施設は少なく、市ですべて行うのは困難と考え、運営ノウハウを持った民間事業者による指定管理者制度を導入することとした。選定に当たっては、選定期間をパークの設計前として早期化を図り、また指定期間を10年とするなどして民間事業者が参入しやすい条件を提示した。その結果、自社のスケートパークの運営や大会・イベントの豊富な開催実績を持つ、株式会社ムラサキスポーツ（本社：東京都台東区）に決定した。

また指定管理者制度と併せて、ネーミングライ

ツ制度も導入。施設修繕等の維持費の軽減や、施設のブランド力向上を目指している。

2. 笠間スポーツコミッションの段階的展開に向けた事業戦略

笠間スポーツコミッションは、ムラサキスポーツの運営を地域が一丸となってバックアップし、地域活力向上を図るために、パークの完成に合わせる形で21年3月に設立された。

■ムラサキパークかさま



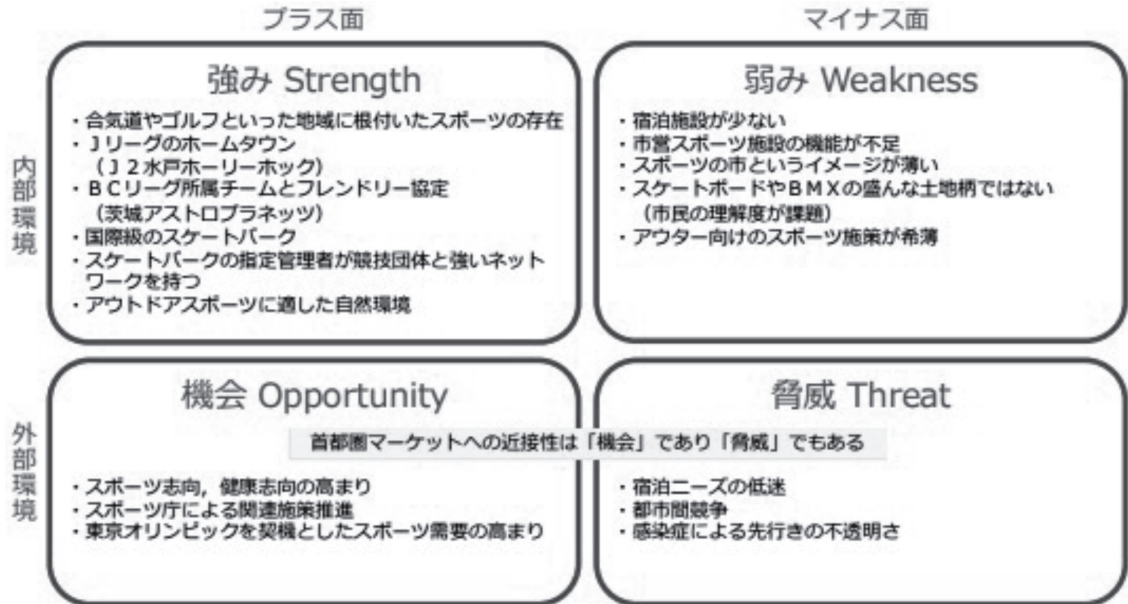
出所：ムラサキスポーツ HP

当初は運営に関する知見が乏しく、人材や財政面での支援を前提とした行政主導の組織として、笠間市教育委員会教育部生涯学習課スポーツ振興室が事務局となり活動。22年8月に「一般社団法人 笠間スポーツコミッション」として独立した。

組織体制は、笠間市、ムラサキスポーツの他、笠間市スポーツ協会、笠間観光協会、笠間市商工会などの各種団体や東日本旅客鉄道、茨城新聞社、明治安田生命保険といった民間企業など幅広い機関で構成されている。

事業戦略構築に当たってはまず笠間市の現状分析を行うため、SWOT分析を行い、その上で弱み・

■図表 笠間市のスポーツを取り巻く SWOT 分析



出所：笠間スポーツコミッション基本計画（笠間市）

脅威を課題としながら強み・機会を活かした下記の3本柱の戦略策定に至った。

①スケートボードで国内トップクラスの地域イメージを確立

東京オリンピック・パラリンピックをきっかけに、スポーツの地域活性化への効果に注目が集まっており、スポーツ庁をはじめとして全国的に関連施策への機運が高まっているため、今後は大会やイベントの開催・集客において都市間競争が激しくなることが考えられる。

そんな中、笠間市が存在感を発揮し、地域スポーツコミッションが効果的に活動を展開していくためには、市の持つ優位性を最大限に活かしながら強固なイメージを確立することが必要となる。

そのための取り組みとして、市の強みとなる新たな国際級のスケートパークを前面に出し、中長期的なビジョンの下、全国規模さらには国際的な

大会を誘致するとともに、その受入れ体制を構築し、「スケートボードのまち・笠間」というイメージづくりを推進する。

また、市民の競技への理解促進や裾野を広げることが重要となるため、市のスポーツ振興施策と連動した取り組みを行う。

②地域経済への波及効果の高いイベントの誘致

スケートボードやBMXの現状は、一般的な国内大会ではまだ多数の集客が期待できる観戦型のスポーツとまでは言えないが、国際大会では、既にトップ選手による競技の魅力に加え、音楽やグルメ等の付加価値により、数万人単位を動員するメガイベントとなっている例もみられており、大きな可能性を持っている。

また、スケートボードはトップ選手でも10代前半の選手が多く、大会には保護者の付き添いにより、選手数の倍程度の来場が見込めるほか、家族

単位での来訪によって、大会・イベント参加後の観光につながることも期待できる。

これらを踏まえ、付加価値を持った大会の誘致や地域資源を生かした多様な観光・宿泊プランの提供等により、市外からの集客による交流人口の拡大を目指す。

③取り組みを通じて得た経験・ノウハウを他競技へ展開

笠間市は合気道ゆかりの地であり、また市内に9つのゴルフ場を有し、市出身の若手ゴルファーが活躍する「ゴルフのまち」でもあることからイベント開催などの取り組みを通じて得た経験・ノウハウをこれらの競技にも活かしていく。

そのほか、JリーグやBCリーグチームのホームタウンであることからチームとの連携強化を図るとともに、将来的には市の特徴を生かしたアウトドアスポーツなどの新たなコンテンツ開発にも取り組みたい考えた。

3. 既に大規模大会も開催。着々と表れている効果

笠間スポーツコミッションでは既に多くのイベントを開催し、実績を上げている。

まずスケートボードの競技会では、全国規模の大会としてパーク完成年に、「第4回日本スケートボード選手権大会」の誘致に成功。オリンピック出場選手も多数出場した。さらに「第2回マイナビスケートボード日本OPEN」も開催。茨城県知事杯スケートボード大会は毎年行われている。その他のアーバンスポーツでもBMXやブレイキンの競技会開催が定着しつつある。

また、スケートボードの普及に向け、初心者向け親子体験会や市内小学校と連携した校外学習、

キッズ合宿なども行っている。

■スケートボード親子体験会の様子



出所：笠間スポーツコミッション HP

その結果、パーク開園当初はコロナ禍であり、利用が心配されたものの、約8カ月で入場者数は累計10,000人に達する上々のスタートを切った。その後も月間1,000人以上のスケーターが利用するパークに成長し、24年6月には累計入場者数が50,000人を超えている。

入場者の大半は若年層であり、また市外からの入場者が約9割を占めていることから、当初の目的であった若年層や広域からの集客は達成できている。

また、笠間市が実施したアンケート結果によると、市内での食事やお土産の購入をした人が半数以上を占めてきており、地域への経済効果も少しずつ、着実に出てきている。

さらに、大会等によるメディアへの露出を通じて笠間市への注目が高まってきており、「スケートボードのまち」として、地域ブランディングの波及効果も表れてきている。

今後は、さらなる組織の自立に向けて、スポーツ大会等の運営の受託、スポンサー企業の獲得といった収益源の確保、活動を担う人材の確保・育成が課題となってくるだろう。